

ツアラトラ、書くWeb ー速習HTML入門ー

岐阜経済大学 経営学部 経営情報学科 井戸 伸彦

来歴:

0.0版 2002年10月19日

■(1)HTML

- (1.1)HTMLファイルの操作
- (1.2)Wordとの違い
- (1.3)“位置付け”に基づく“見栄え”の設定

■(2)HTML文書の基本構造

■書き方

- (3.1)文章を入力する
- (3.2)文章を文節として入力する
- (3.3)文章をそのまま表示させる

■(4)文字サイズを指定する

■(5)文字の色を指定する

■(6)背景と全体の文字の色とを指定する

■(7)文字の位置を指定する

■(8)区切り線を入れる

■(9)リストを表示させる

■(10)テーブル(表)を表示させる

■(11)画像を入れる

■(12)リンクを設定する

前提

- 本講座では、Webサイトを作成するために、HTMLをエディタで作成・編集する方法について説明します。
- 「ヘンタイ良い子のWeb講座」を受講している程度の知識がある受講者を想定しています。
- ざっとHTMLについて知るための説明だけに留めています。必要な注意等も省略している場合があります。

(1) HTML(Hyper Text Markup Language)

- 我々が通常“ワープロ”と呼んでいるもの(“Word”等)は、WYSWHG(What You See is What You Get.ウィジウィグ)と言う方法を採用しています。「文書作成時に見るままのものが、文書として得られる」というわけです。
- HTMLを自分で書く場合、文書作成時に見るものは、文書として得られるものと外見は違います。しかしながら、単純に対応が付き、難しいものではありません。



≠



(1.1) HTMLファイルの操作

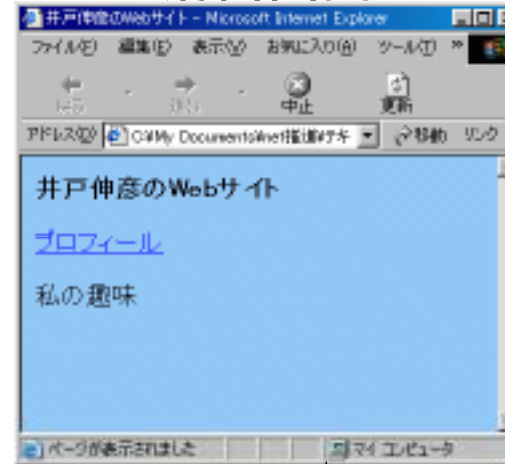
■HTMLファイルは、テキストファイルとして扱います。すなわち、Windowsならば“メモ帳”、Unixならば“emacs”で編集します。

■には、拡張子“.html”(または“.htm”)を付けます。このような拡張子が付いたファイルをダブルクリックすると、ブラウザにて清書した形を見ることが出来ます。

< 作成・編集画面 >



< 清書画面 >



エディタ
(メモ帳、
emacs)

ブラウザ
(I.E,N.N)

開く

上書き
保存

ダブル
クリック

xxx.html

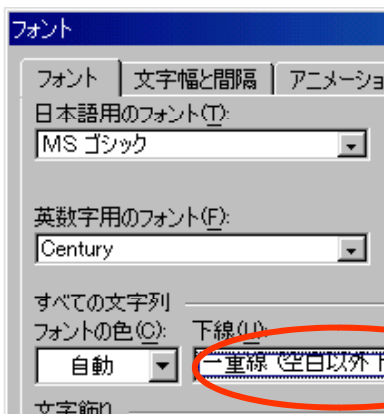
< HTMLファイル >



(1.2) Wordとの違い

- WYSWYGであるWordでは、メニューやツールボタンを操作して、文章の“見え”をきめていきます。HTMLでは、メニューやツールボタンで設定する“見え”を、“タグ”という制御文字で指定していきます。

< Wordの場合 >



ダイアログボックスでの操作により、設定。



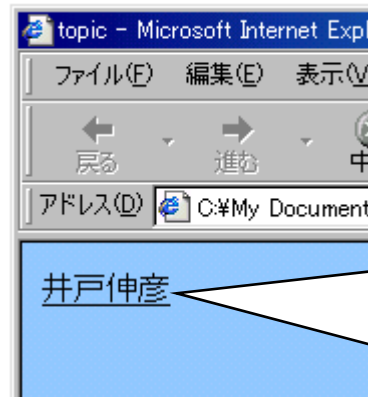
操作の結果は、画面上でそのまま見える。

< HTMLの場合 >

< テキスト文書 >

<u>井戸伸彦</u>

タグと呼ぶ制御文字列により、設定



ブラウザで見ると、下線が設定されている。

(1.3) “位置付け”に基づく“見栄え”の設定

- タグは、単に見栄えを指定するだけでなく、文書の中での“位置付け”を指定出来ます。
- 例えば、“見出し”という位置付けに指定すれば、“見栄え”としては、字の大きさ / 行間隔が変わります。

The diagram illustrates the relationship between HTML source code and its rendered output. On the left, a Notepad window shows the source code for a page titled 'main - メモ帳'. On the right, a Microsoft Internet Explorer window shows the rendered page titled 'topic - Microsoft Internet Explorer'. Red arrows and circles connect specific HTML tags in the source code to their corresponding visual elements in the browser. The connections are as follows:

- 背景の色を指定** (Specify background color): Points to `<body bgcolor="#99CCFF">` in the source code and the light blue background of the browser window.
- 見出しを指定** (Specify heading): Points to `<h3>HTMLについて</h3>` in the source code and the heading 'HTMLについて' in the browser.
- パラグラフを指定** (Specify paragraph): Points to `<p>ここでは、文字に関する事項を説明します。</p>` in the source code and the first paragraph in the browser.
- リストを指定** (Specify list): Points to the list structure in the source code (starting with `<ol style="list-style-type: none;">`) and the numbered list items in the browser.
- タイトルを指定** (Specify title): Points to `<title>文字情報</title>` in the source code and the title '2 文字情報' in the browser.
- 項目を指定** (Specify item): Points to the list items in the source code (e.g., `<li>2-1 文字列の表示</li>`) and the list items in the browser.
- 大きさ・色を指定** (Specify size and color): Points to the font size and color attributes in the source code (e.g., `font size="4" color="#FF0000"`) and the corresponding text formatting in the browser.

Source Code (main - メモ帳):

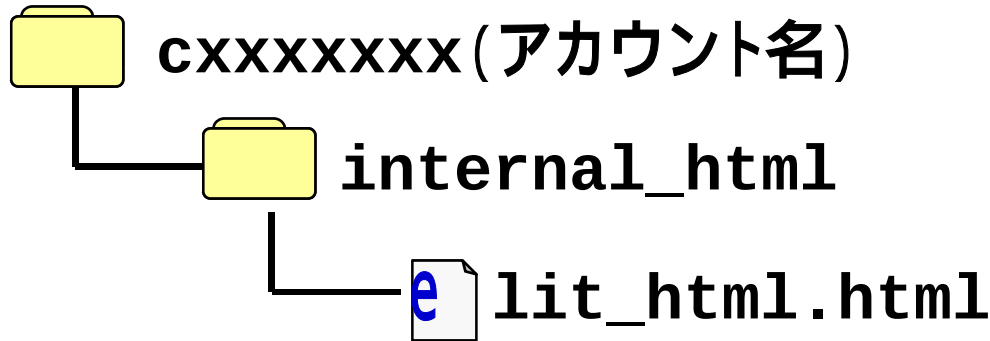
```
<body bgcolor="#99CCFF">
<h3>HTMLについて</h3>
<p>ここでは、文字に関する事項を説明します。</p>
<ol style="list-style-type: none;">
<li>2 文字情報
<ol style="list-style-type: none;">
<li>2-1 文字列の表示
<li>2-2 文字サイズの指定 1
<li>2-3 文字サイズの指定 2
</ol>
</li>
<li>3 文字の修飾
<ol style="list-style-type: none;">
<li>3-1 太字・車体・下線・抹消線
<li>3-2 上付き文字・下付き文字
</ol>
</li>
<li>4 文字の位置
<ol style="list-style-type: none;">
<li>4-1 文字位置
</ol>
</li>
</ol>
</body>
</html>
```

Rendered Page (topic - Microsoft Internet Explorer):

- HTMLについて
- ここでは、文字に関する事項を説明します。
- 2 文字情報
 - 2-1 文字列の表示
 - 2-2 文字サイズの指定 1
 - 2-3 文字サイズの指定 2
- 3 文字の修飾
 - 3-1 太字・車体・下線・抹消線
 - 3-2 上付き文字・下付き文字
- 4 文字の位置
 - 4-1 文字位置

(2.1) 作成するファイルとURL

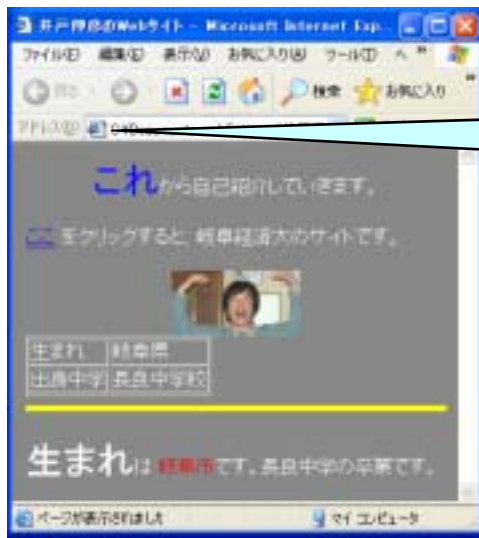
- 次のファイルを作成していくことにします。



- “秀丸”エディタで作成し、FFFTPでアップロードします。

- ブラウザから次のURLにてアクセスします。

http://center.gifu-keizai.ac.jp/~cxxxxxxx/lit_html.html



(2 . 2) HTML文書の基本構造

■HTML文書は、右図のような形をしています。

■ここで現れるタグは、<head>
</head>のように対になっています。
<head>を開始タグ、</head>を終了タグと呼び、この2つの間にタグで指定した内容(この場合はヘッダ)を書き込むことになります。

■<html>と<head>については説明しません。タイトルの部分だけ自分用に直し、次のとおりにしておいてください。

```
<html>
<head>
  文書の情報を記述
  タイトルを指定
</head>
<body>
  画面に表示する文章
  画像など(これから説明)
</body>
</html>
```

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//IETF//DTD HTML//EN">
```

```
<html>
```

```
<head>
```

```
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=SHIFT_JIS">
```

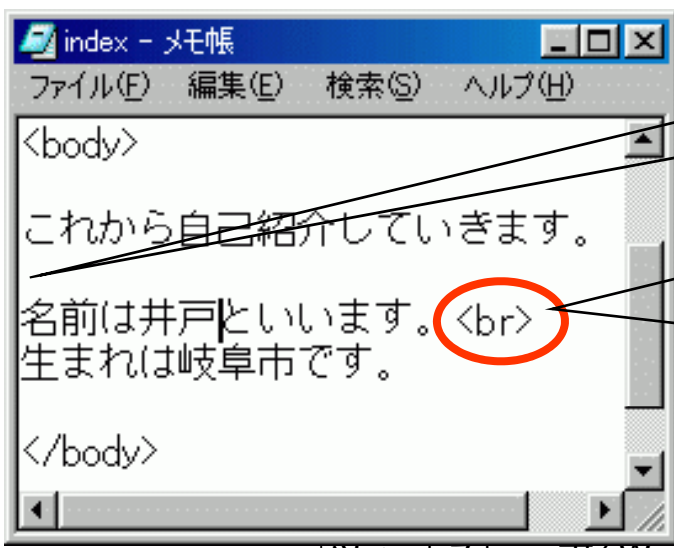
```
<title>井戸伸彦のWebサイト</title>
```

```
</head>
```

(3.1) 文章を入力する

- <body>と</body>の間は、普通に文章を入力すれば、それが表示されます。
- HTML文書中の改行 / 空白は無視され、改行 / 空白で区切られた2つの文は、ブラウザ上では続きで出てきます。
- ブラウザ上で改行を入れた場合は、タグ“
”を用います。

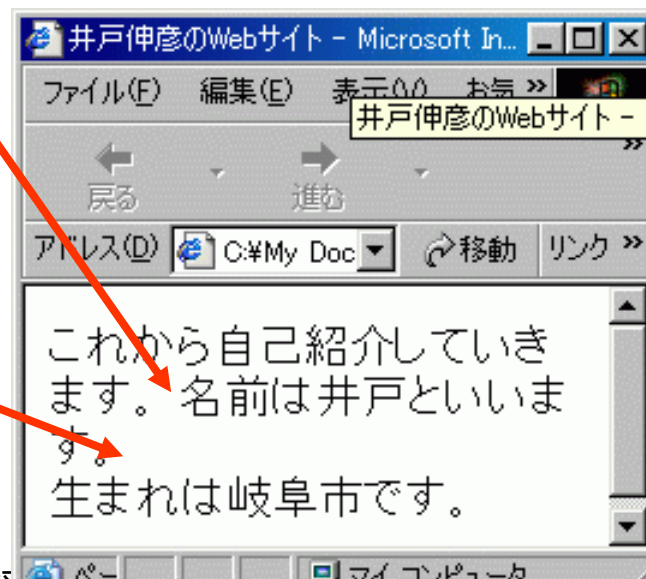
< HTML文書 >



改行は無視
される

を入力
すると、改行
する

< ブラウザ >



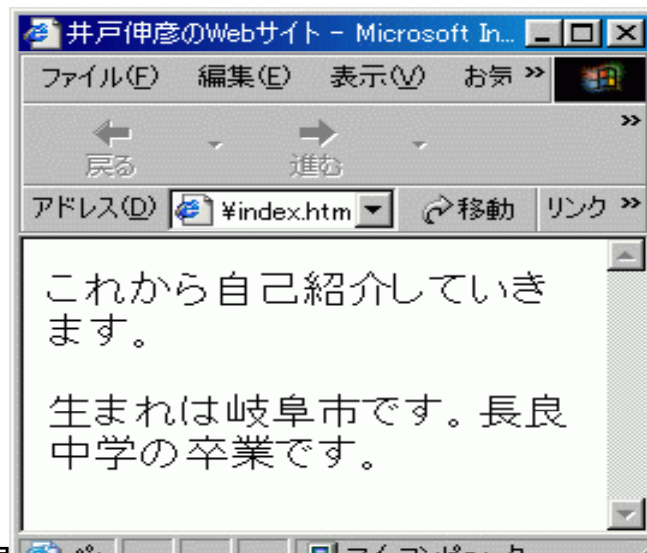
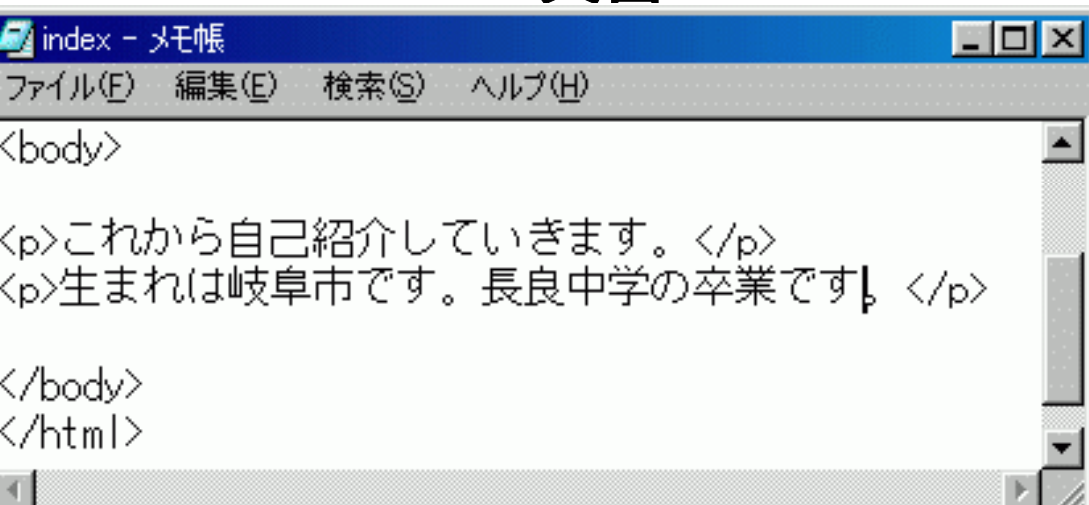
(3.2) 文章を文節として入力する

- タグ“
”で見栄えを調整するより、入力したものの“位置付け”を指定したほうが何かと便利です。
- 次のように“<p>”と“</p>”のタグではさんで、文章のかたまり(文節)であることを指定します。“<p>”の“p”は、パラグラフ(文節)のpです。

<p>文章のかたまり(文節)</p>

<ブラウザ>

<HTML文書>

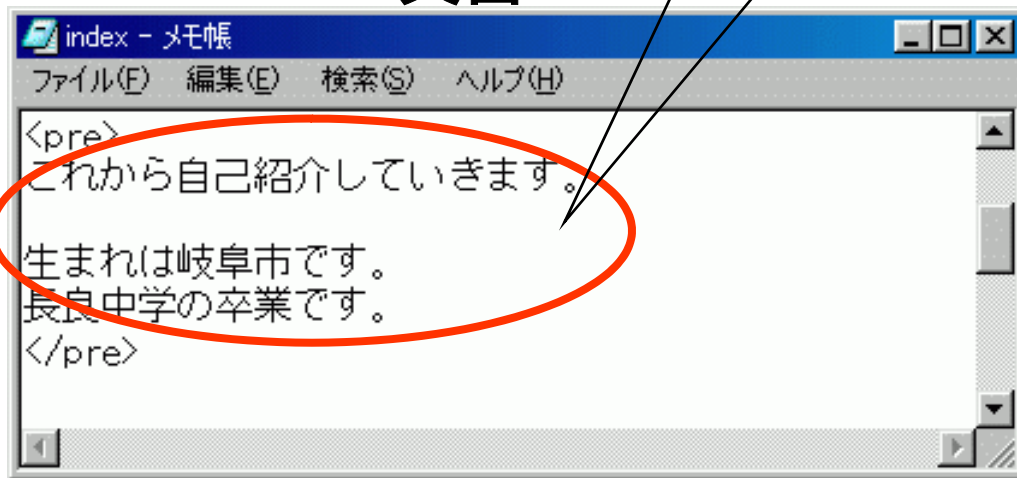


(3.3) 文章をそのまま表示させる

- HTML文書に書いた文章を、そのままブラウザに表示させたいときは、次のタグで囲みます。

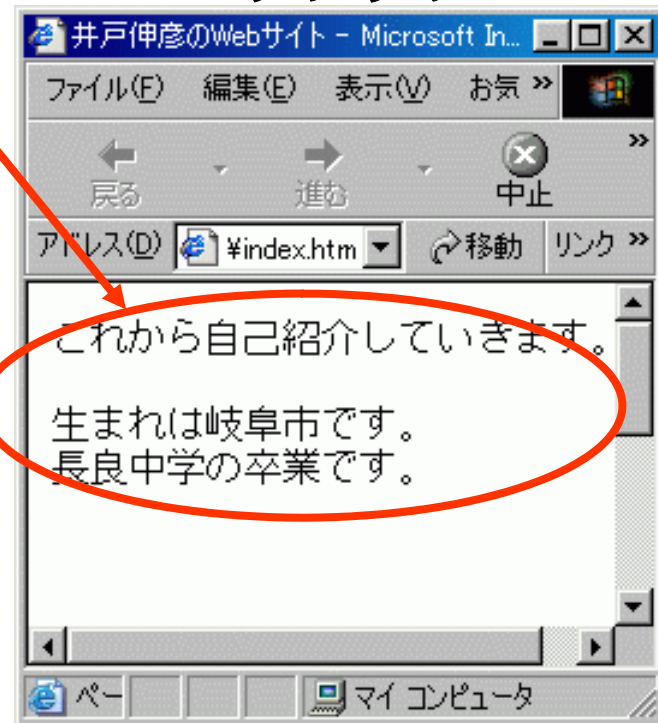
```
<pre>そのまま表示させたい文章</pre>
```

< HTML文書 >



改行等も
そのまま表示
される

< ブラウザ >



(4) 文字サイズを指定する

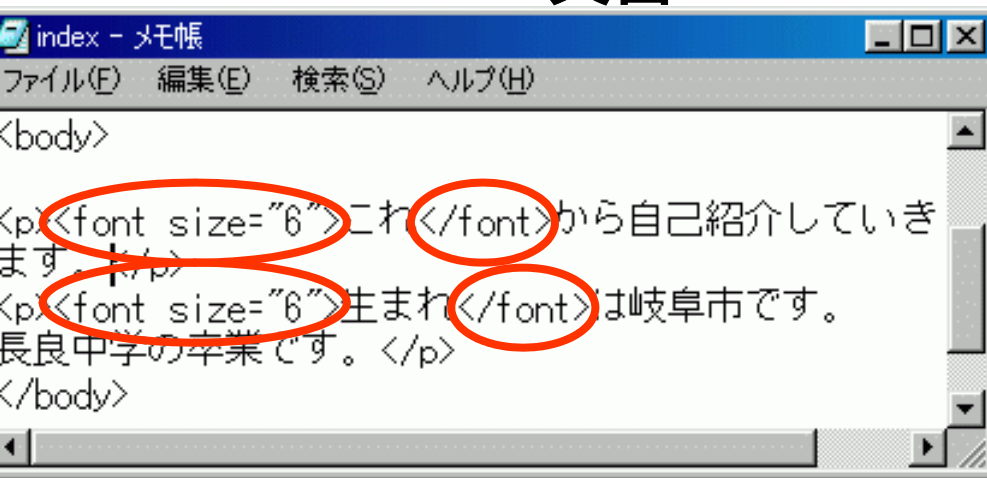
- 文字サイズを指定する際には、サイズを変更した部分を、次のようにタグで囲みます。

`<font size="6">サイズを変更したい部分</font>`

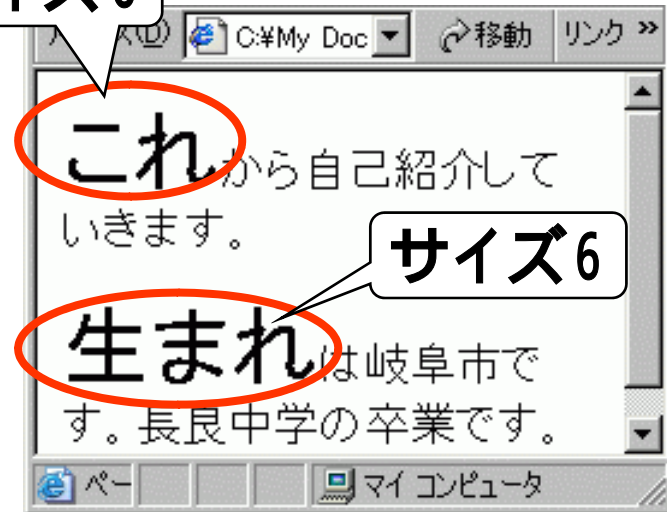
属性名 ← 属性値 (" " で囲む)

- サイズ以外にも、属性名 = "属性値" の形式で色も指定できます (次のスライド)。

< HTML文書 >



サイズ6 < ブラウザ >



(5) 文字の色を指定する

■色の指定も、タグ“”の属性で指定します。

色を変更したい部分

赤の成分を“FF”

緑の成分を“55”

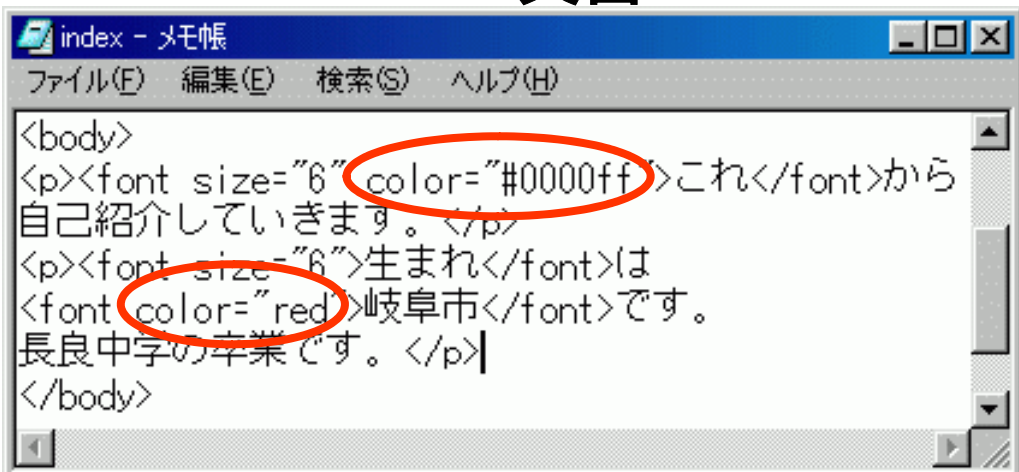
青の成分を“00”

合計すると
オレンジ

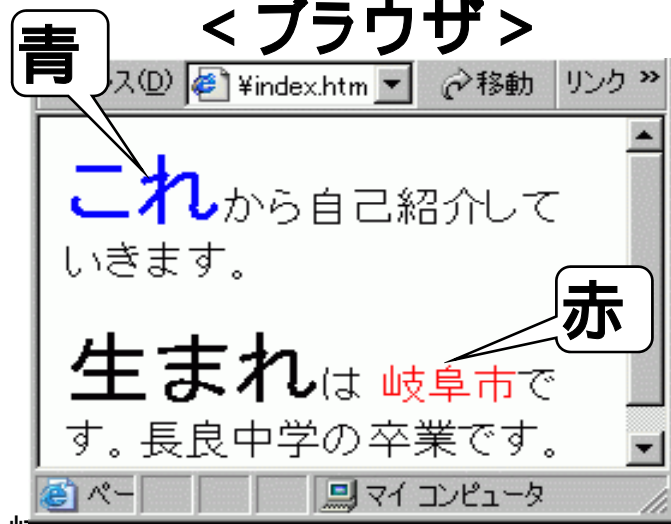
■色見本 (<http://tohoho.wakusei.ne.jp/wwwcolor.htm#Color> など)を見ると、番号と色の対応が判ります。

注: 基本的な色は、色の名前(“white”, “red”)でも指定できます。

<HTML文書>



<ブラウザ>



(6) 背景と全体の文字の色とを指定する

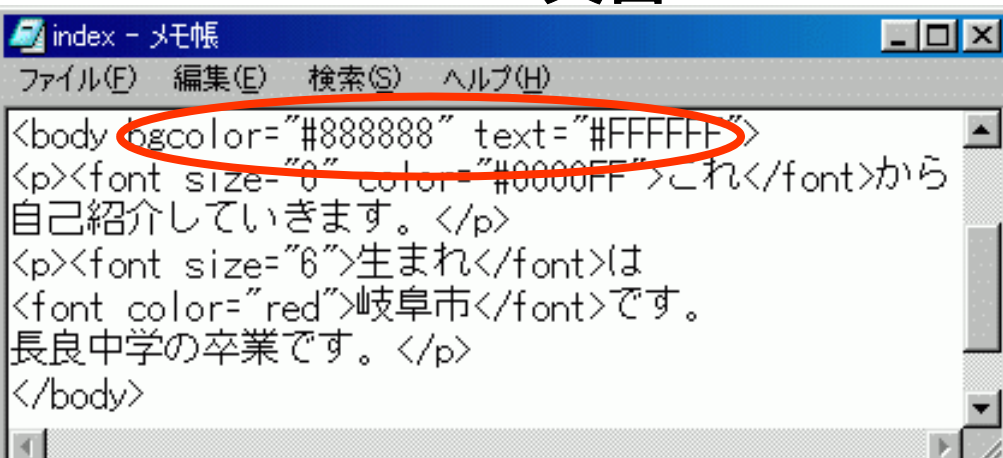
- 背景、全体の文字の色は、タグ“<body>”(スライド(2)で説明したものです)の属性として指定します。

```
<body bgcolor="#888888" text="#FFFFFF">
```

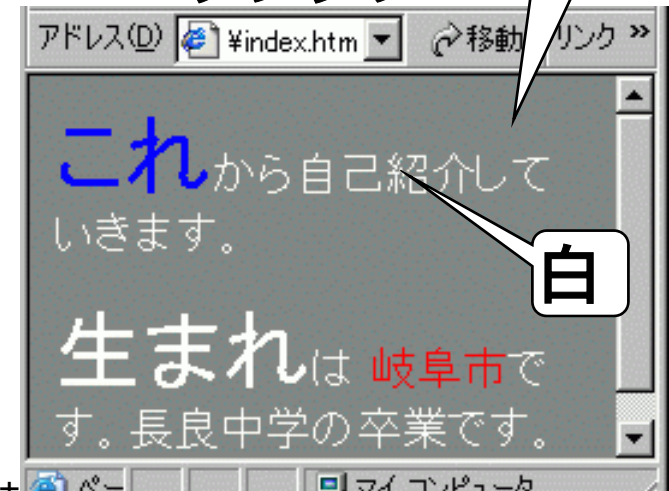
“グレー”の背景に、“白”の字を書く

- タグ“”の属性で指定した色は、そのまま残ります。

< HTML文書 >



< ブラウザ >



(7) 文字の位置を指定する

- 「中央揃え」や「右寄せ」などの指定は、タグ“<p>”の属性で指定できます。

<p align=center>中央揃えにする部分</p>

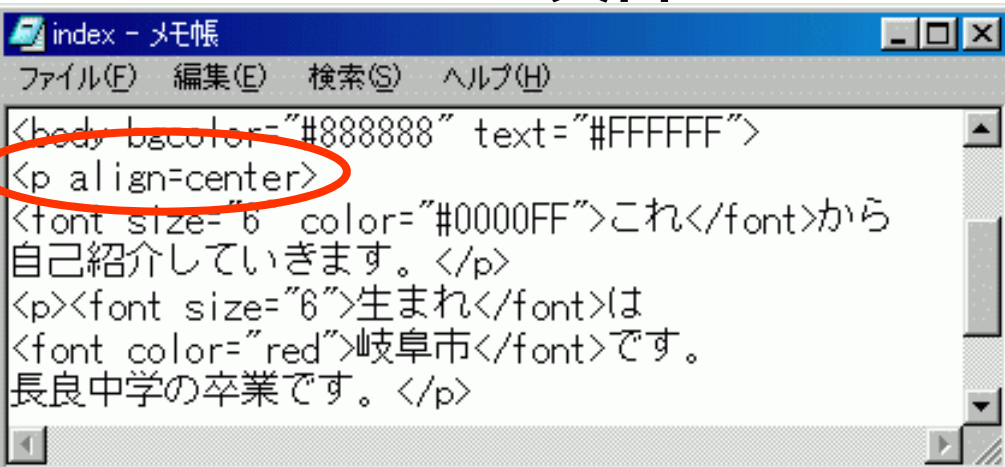


left: 左寄せ、right: 右寄せ、justify: 均等割付け

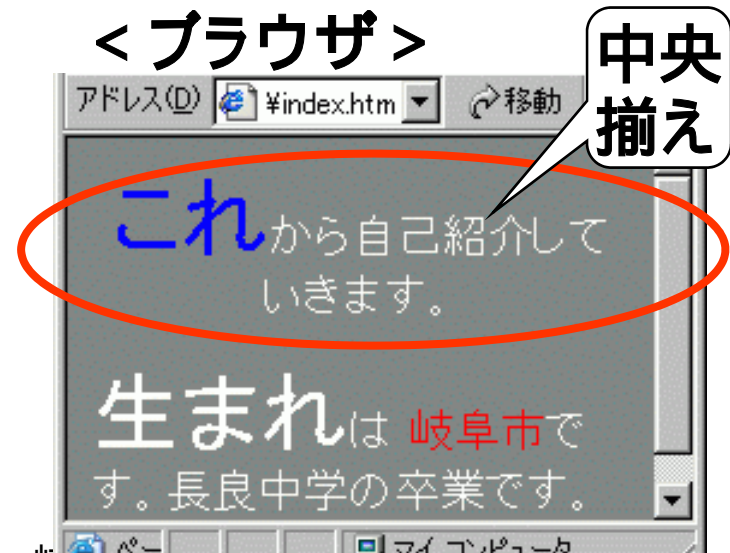
- 中央揃えは、タグ“<center>”を使っても指定できます。

<p><center>中央揃えにする部分</center></p>

< HTML文書 >



< ブラウザ >



(8) 区切り線を入れる

■横の区切り線を入れるには、タグ“<hr>”を用います。

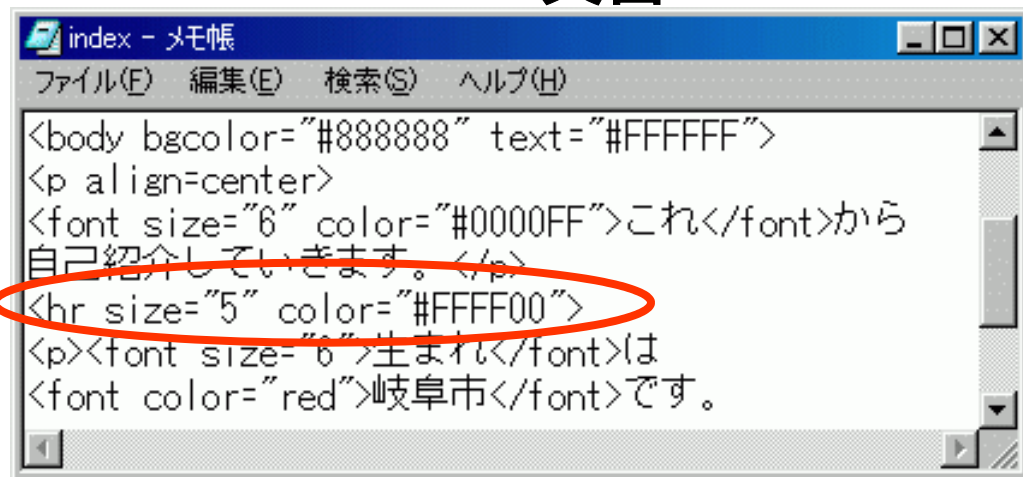
```
A<hr size="5" color="#0000FF">B
```

太さが“5”で、色が黄色の区切り線を、AとBとの間に入れる

■このほかに、線の長さや、位置などを指定出来ます。

- width=“50%” 画面の50%の長さの区切りを入れる。
- align=“center” 中央揃えの区切り線を入れる。

< HTML文書 >



< ブラウザ >



(9) リストを表示させる

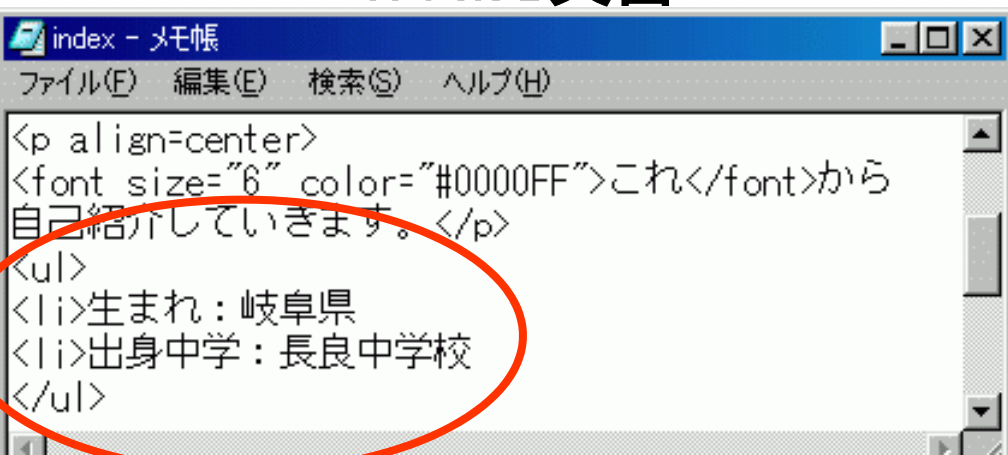
- リストは、始まりと終わりをタグ“”、“”で指定し、項目をタグ“”、“”で指定します。

1番目の項目2番目の項目

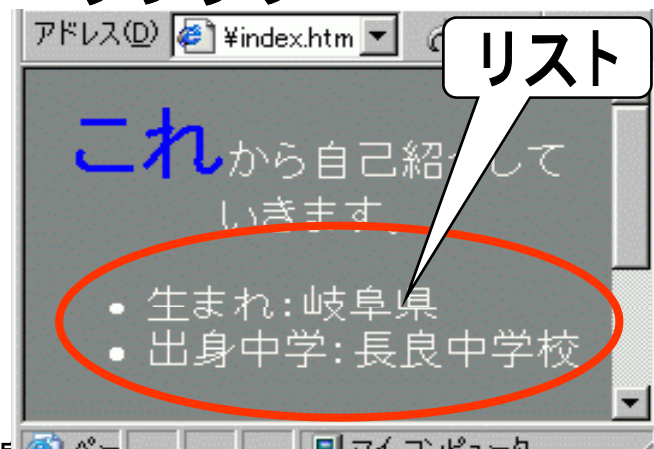
2つの項目をリストにする

- タグ“”を、タグ“”に替えると、項目に番号がつきます。また、階層のあるリストは、<dl><dt><dd>を使いますが、説明は省略します。

< HTML文書 >



< ブラウザ >



(10) テーブル(表)を表示させる

■次のように指定します。

- テーブルの始まりと終わりは、`<table>テーブルの中身</table>`
行の始まりと終わりは、`<tr>行の中身</tr>`
ます目の始まりと終わりは、`<td>ひとマスの中身</td>`

■例

```
<table border="1">
```

```
<tr><td>A</td><td>B</td></tr>
```

```
<tr><td>C</td><td>D</td></tr>
```

```
</table>
```

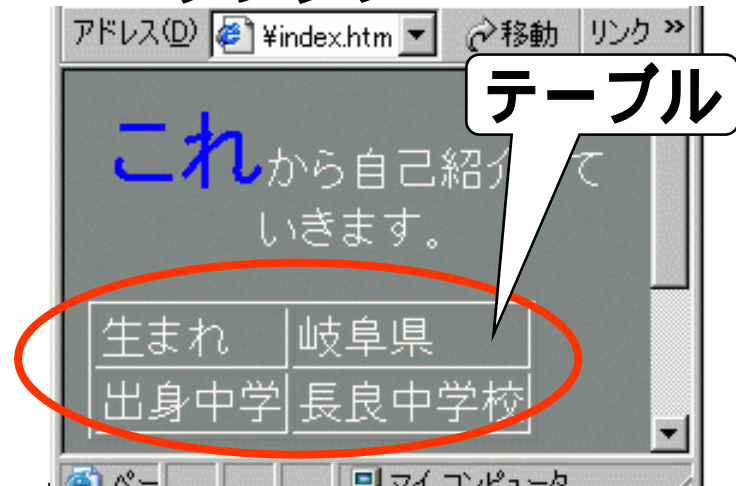
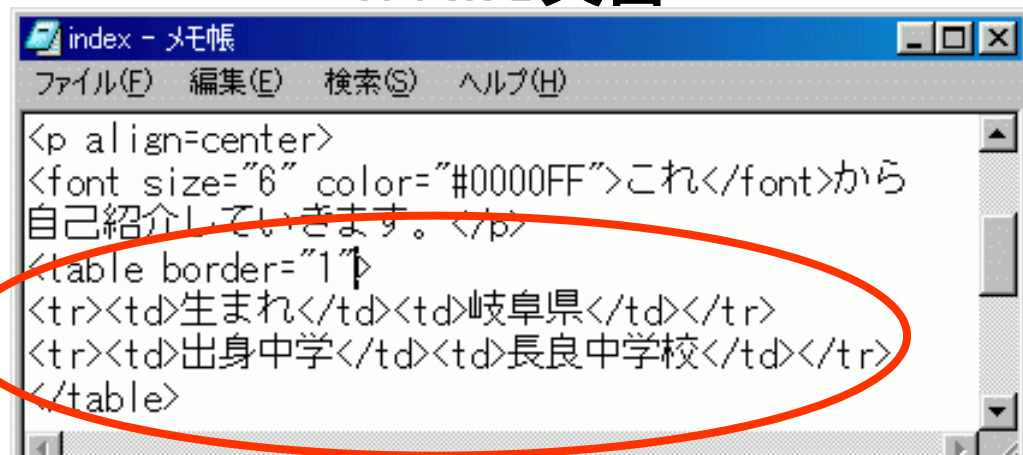
罫線を入れる



A	B
C	D

< HTML文書 >

< ブラウザ >



(11) 画像を入れる

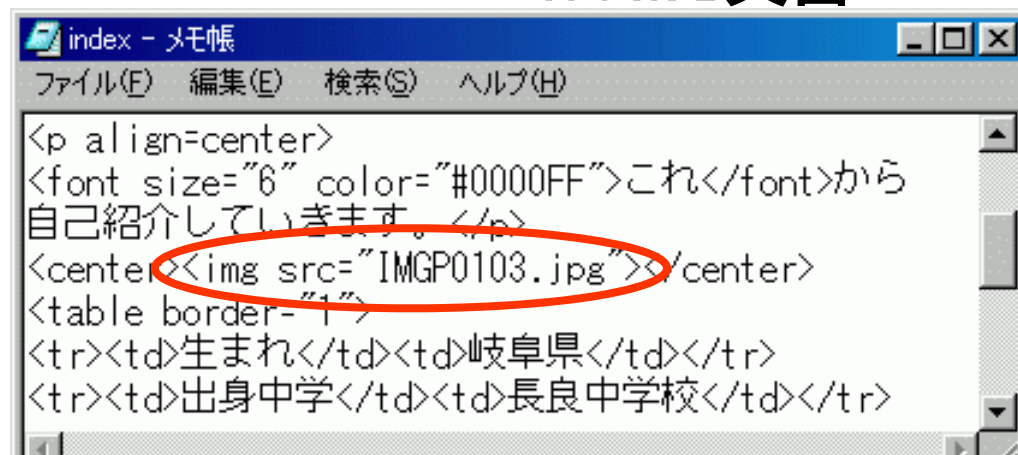
- タグ“”を使って、挿入する画像ファイルを指定します。

```

```

- ファイル名は、ファイルが収めてあるディレクトリ(フォルダ)も含めて指定します。フォルダ“sports”の中の“ski.jpg”を指定する場合、“sports/ski.jpg”となります。
- 大きさ、枠など、たくさんの項目が設定できます。
- 下の例では、<center></center>により、中央揃えとしています。 <HTML文書>

<ブラウザ>



(12) リンクを設定する

- リンクの設定は、タグ“<a>”を使って行います

 リンク元

- リンク先は、HTMLファイル名、URLのいずれでもOKです。

- リンク元は、文字列でも図形でもOKです。

